

**<地域公共交通計画の評価等結果の様式>**

福島県避難地域広域公共交通計画の評価等結果（令和6年10月～令和7年9月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
1日当たりの利用者数及び事業収支	運行ルートの見直し、利活用推進のため住民への周知等の取組の実施	交通事業者からの報告及び関係機関による検証会議の実施	別紙「福島県避難地域広域公共交通計画の進捗状況について」のとおり	別紙「福島県避難地域広域公共交通計画の進捗状況について」のとおり	

福島県避難地域広域公共交通計画の進捗状況について

□施策 1 広域路線バスの運行

事業 1-1 川内～富岡系統

<p>利用状況 (1日当たり)</p>	<p>◆通学利用者 ・通学利用なし</p> <p>◆通勤利用者 ・富岡町文化交流センター～夜ノ森駅西口(0.75人) ・富岡町文化交流センター～富岡駅前(0.3人)・宮ノ下～富岡駅前(0.4人)</p> <p>◆主な利用 ・川内村～富岡町間の広域的な利用が見られる。</p>				
<p>指標</p>	<p>年 度</p>	<p>1日当たりの 利用者数</p>		<p>事業収支</p>	
	<p>令和元年事業年度 &lt;基準値&gt;</p>	<p>2.3人</p>	<p>—</p>	<p>3.9%</p>	<p>—</p>
	<p>令和4年事業年度 &lt;現況値&gt;</p>	<p>1.8人</p>	<p>↓</p>	<p>5.7%</p>	<p>↑</p>
	<p>令和5年事業年度 &lt;今回評価値&gt;</p>	<p>2.5人</p>	<p>↑</p>	<p>7.4%</p>	<p>↑</p>
	<p>令和6年事業年度 &lt;今回評価値&gt;</p>	<p>2.3人</p>	<p>↓</p>	<p>5.1%</p>	<p>↓</p>
	<p>令和7年事業年度 &lt;今回評価値&gt;</p>	<p>2.1人</p>	<p>↓</p>	<p>10.7%</p>	<p>↑</p>
	<p>目標達成状況</p>	<p>目標値：10.0人以上 (目標未達)</p>		<p>目標：事業収支の上昇 (目標達成)</p>	
<p>施策の取組 状況</p>	<p>①利活用の推進 ・町内で乗降する場合について一律100円で乗降できる補助を実施(富岡町) ・バス運賃の1/2補助を実施(川内村) ・高校生へのバス運賃補助(上限月3万円)を実施(川内村)</p> <p>②運行ルートの見直し ・令和7年10月1日に川内村の第六区、第七区集会所を經由するルートに変更。狭隘道路を通行するため、車両をハイエースコンピューターに変更。</p> <p>③運行ダイヤの見直し ・JR常磐線との接続を含め、引き続き検討。</p>				
<p>課題・取組 の方向性</p>	<p>・ルート変更の効果が表れるように、認知度を上げていく。 ・ふたば未来学園への通学需要に対する働きかけを検討していく。 ・川内村複合商業施設「Y-O-TASHI」前のバス停設置を検討する。 ・利用状況や移動需要を分析し、運行ルート、運行ダイヤの見直しを引き続き検討していく。</p>				
<p>特記事項</p>	<p>・利用者数は令和元年度から大きな変化はないが、JR常磐線への接続による相双地域への通学など、川内村からのアクセスで重要な公共交通となっている。</p>				

## 事業1-2 いわき～富岡系統

利用状況 (1日当たり)	◆通学利用者 ・平六小入口～中島(2.3人) ◆通勤利用者 ・いわき駅前～農協前 神谷住宅口 仁井田浦口 東二丁目(5.1人) ◆主な利用 ・いわき市内の利用がほとんどである。富岡町から檜葉町、広野町、いわき市への利用者も見られる。				
指標	年 度	1日当たりの 利用者数		事業収支	
	令和元年事業年度 <基準値>	10.1人	-	3.9%	-
	令和4年事業年度 <現況値>	11.9人	↑	5.7%	↑
	令和5年事業年度 <今回評価値>	14.7人	↑	7.0%	↑
	令和6年事業年度 <今回評価値>	34.4人	↑	8.1%	↑
	令和7年事業年度 <今回評価値>	61.7人	↑	18.3%	↑
	目標達成状況	目標値：30.0人以上 (目標達成)		目標：事業収支の上昇 (目標達成)	
施策の取組 状況	①利活用の推進 ・町民バスとの接続(広野町) ・町内で乗降する場合について一律100円で乗降できる補助を実施(富岡町) ・プレミアム付き乗車回数券の発行(いわき市) ②運行ルートの見直し ・いわき市内の並行路線「平～四倉線」のバス停の追加。 ③運行ダイヤの見直し ・②と併せて、通勤、通学に適した運行ダイヤの見直し。				
課題・取組 の方向性	・バス停の追加設置により利用者数が急増し、目標達成。引き続き、利用状況や移動需要を分析しながら、笑みふるタウン(檜葉町)、富岡産業団地(富岡町)へのバス停設置を検討する。 ・ふたば未来学園への通学利便性の強化を図るため、部活動からの帰宅時間に合わせた運行ダイヤの見直しを検討する。				
特記事項					

### 事業1-3 葛尾～船引系統

利用状況 (1日当たり)	◆通学利用者 ・落合～船引駅前(3人) ※定期券利用人数 ・西の内～新館(2人) ※定期券利用人数 ◆通勤利用者 ・通勤利用なし ◆主な利用 ・「船引駅前」、「船引高校」～「落合」(葛尾村内の終点)間の利用が最も多い。 ・「船引駅前」～葛尾村間の広域的な利用が見られる。				
指標	年 度	1日当たりの 利用者数		事業収支	
	令和元年事業年度 <基準値>	18.0人	-	10.4%	-
	令和4年事業年度 <現況値>	16.9人	↓	12.2%	↑
	令和5年事業年度 <今回評価値>	15.6人	↓	10.2%	↓
	令和6年事業年度 <今回評価値>	13.4人	↓	8.5%	↓
	令和7年事業年度 <今回評価値>	11.7人	↓	5.5%	↓
	目標達成状況	目標値：40.0人以上 (目標未達)		目標：事業収支の上昇 (目標未達)	
施策の取組 状況	①利活用の推進 ・公共交通マップを制作し、周知を実施(田村市) ・広報誌にバス運行ダイヤを掲載(葛尾村) ②運行ルートの見直し ・利用実態を確認の上、引き続き検討。 ③運行ダイヤの見直し ・磐越東線との接続を含め、引き続き検討。				
課題・取組 の方向性	・利用実態を踏まえながら、競合路線である「移線」、「百目木線」との再編・統合を検討していく。				
特記事項	・利用者が少しずつ減少してきているが、葛尾村から船引高校への通学利用など、住民の生活の足として重要な公共交通となっている。				

## 事業1-4 川内～船引系統

利用状況 (1日当たり)	<p>◆通学利用者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮ノ下～船引高校(1人) ※定期券利用人数</li> <li>・車庫前～船引駅前(1人) ※定期券利用人数</li> </ul> <p>◆通勤利用者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・林～船引駅方面(1名) ※定期券利用人数</li> </ul> <p>◆主な利用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田村市内での利用と、川内～船引間の広域的な利用に分かれている。</li> </ul>				
指標	年 度	1日当たりの 利用者数		事業収支	
	令和元年事業年度 <基準値>	32.1人	—	18.3%	—
	令和4年事業年度 <現況値>	28.3人	↓	17.5%	↓
	令和5年事業年度 <今回評価値>	27.4人	↓	15.7%	↓
	令和6年事業年度 <今回評価値>	25.8人	↓	13.7%	↓
	令和7年事業年度 <今回評価値>	24.9人	↓	10.4%	↓
	目標達成状況	目標値：60.0人以上 (目標未達)		目標：事業収支の上昇 (目標未達)	
施策の取組 状況	<p>①利活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通マップを制作し、周知を実施(田村市)</li> <li>・バス運賃の1/2補助を実施(川内村)</li> <li>・高校生へのバス運賃補助(上限月3万円)を実施(川内村)</li> </ul> <p>②運行ルートの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用実態を確認の上、引き続き検討。</li> </ul> <p>③運行ダイヤの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・磐越東線との接続を含め、引き続き検討。</li> </ul>				
課題・取組 の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用実態を踏まえながら、競合路線である「古道線」との再編・統合を検討していく。</li> <li>・たむら市民病院の移転等を踏まえ、運行ルートの見直しについて検討する。</li> </ul>				
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が少しずつ減少してきているが、川内村から船引高校への通学利用など、住民の生活の足として重要な公共交通となっている。</li> </ul>				

事業1-5 川内～小野系統

<p>利用状況 (1日当たり)</p>	<p>◆通学利用者 ・ゆふね～川内農協(0.8人) ・上三坂～小野高校前(0.5人) ◆通勤利用者 ・通勤利用なし ◆主な利用 ・ほとんどの利用が川内～小野の広域的な利用となっている。</p>				
<p>指標</p>	<p>年 度</p>	<p>1日当たりの 利用者数</p>		<p>事業収支</p>	
	<p>令和元年事業年度 &lt;基準値&gt;</p>	<p>5.3人</p>	<p>—</p>	<p>2.8%</p>	<p>—</p>
	<p>令和4年事業年度 &lt;現況値&gt;</p>	<p>10.3人</p>	<p>↑</p>	<p>7.2%</p>	<p>↑</p>
	<p>令和5年事業年度 &lt;今回評価値&gt;</p>	<p>7.3人</p>	<p>↓</p>	<p>7.0%</p>	<p>↓</p>
	<p>令和6年事業年度 &lt;今回評価値&gt;</p>	<p>5.3人</p>	<p>↓</p>	<p>5.5%</p>	<p>↓</p>
	<p>令和7年事業年度 &lt;今回評価値&gt;</p>	<p>4.0人</p>	<p>↓</p>	<p>7.8%</p>	<p>↑</p>
	<p>目標達成状況</p>	<p>目標値：15.0人以上 (目標未達)</p>		<p>目標：事業収支の上昇 (目標達成)</p>	
<p>施策の取組 状況</p>	<p>①利活用の推進 ・バス運賃の1/2補助を実施(川内村) ・高校生へのバス運賃補助(上限月3万円)を実施(川内村) ・広報誌やSNS等を通じて通学、通勤等での利用呼び掛け(小野町) ・プレミアム付き乗車回数券の発行(いわき市) ②運行ルートの見直し ・令和7年10月1日から、小野町への速達性、快適性の向上を図るため、県道145号バイパス区間を通行するルートに変更。ルート変更に伴い、田村市内のバス停は廃止。 ③運行ダイヤの見直し ・磐越東線との接続を含め、引き続き検討。</p>				
<p>課題・取組 の方向性</p>	<p>・利用者数が令和5年度から減少傾向にある。小野高校への通学利用が主な利用となっているが、令和8年4月に小野高校が船引高校と統合予定のため、統合後の利用者減少が課題となっている。 ・小野高校の統合や令和9年度の小野町役場の移転等を踏まえ、運行ルートの見直しについて検討する。</p>				
<p>特記事項</p>					

事業1-6 南相馬～川俣～医大経由福島系統

<p>利用状況 (1日あたり)</p>	<p>◆通学利用者                  ・川俣営業所～南相馬市役所(1.0人)                  ・原町駅前～福島駅東口(1.0人) ※定期券利用人数                  ・飯舘ふれ愛館～川俣高校前(1.0人) ※定期券利用人数                  ・飯舘までい館～南相馬市役所(1.0人) ※定期券利用人数                  ・南相馬市役所～白石(1.0人) ※定期券利用人数                  ・大原～南相馬市役所(1.0人) ※定期券利用人数                  ◆通勤利用者                  ・原町駅前～福島駅東口(5.0人) ※定期券利用人数                  ・南相馬市役所～福島駅東口(1.0人) ※定期券利用人数                  ・南相馬市役所～長野(1.0人) ※定期券利用人数                  ◆主な利用                  ・福島駅東口から原町駅前の利用が最も多くなっている。医大への利用も多い。</p>				
<p>指標</p>	<p>年 度</p>	<p>1日当たりの 利用者数</p>		<p>事業収支</p>	
	<p>令和元年事業年度 &lt;基準値&gt;</p>	<p>64.9人</p>	<p>—</p>	<p>23.3%</p>	<p>—</p>
	<p>令和4年事業年度 &lt;現況値&gt;</p>	<p>41.8人</p>	<p>↓</p>	<p>17.6%</p>	<p>↓</p>
	<p>令和5年事業年度 &lt;今回評価値&gt;</p>	<p>46.3人</p>	<p>↑</p>	<p>16.5%</p>	<p>↓</p>
	<p>令和6年事業年度 &lt;今回評価値&gt;</p>	<p>59.9人</p>	<p>↑</p>	<p>18.2%</p>	<p>↑</p>
	<p>令和7年事業年度 &lt;今回評価値&gt;</p>	<p>62.1人</p>	<p>↑</p>	<p>15.7%</p>	<p>↓</p>
	<p>目標達成状況</p>	<p>目標値：120.0人以上 (目標未達)</p>		<p>目標：事業収支の上昇 (目標未達)</p>	
<p>施策の取組 状況</p>	<p>①利活用の推進                  ・窓口やHPにより周知(南相馬市)                  ・バス時刻表等のHPへの掲載や村内公共施設での配置(飯舘村)                  ②運行ルートの見直し                  ・医大を経由しないルートなど、ニーズの把握や利用実態を確認の上、引き続き検討。                  ③運行ダイヤの見直し                  ・②と併せて、通勤、通学に適した運行ダイヤの見直し。</p>				
<p>課題・取組 の方向性</p>	<p>・利用者数について目標未達となっているが、利用者は増加傾向であり、引き続き利用ニーズの把握、運行ルートの見直しを検討する。</p>				
<p>特記事項</p>					

事業1-7 富岡～浪江 FH2R 系統

<p>利用状況 (1日当たり)</p>	<p>◆通学利用者 ・通学利用なし</p> <p>◆通勤利用者 ・富岡駅前～大熊町役場 (0.75人) ・富岡駅前～富岡町役場 (0.95人) ・富岡駅前～さくらモール・診療所前 (0.75人) ・富岡駅前～とみおかアーカイブミュージアム (3.6人)</p> <p>◆主な利用 ・大熊町、富岡町での利用が多くを占めている。 ・浪江町内の「権現堂元町」～「FH2R」間の利用はほとんど見られない。</p>				
<p>指標</p>	<p>年 度</p>	<p>1日当たりの 利用者数</p>		<p>事業収支</p>	
	<p>令和4年事業年度 &lt;現況値&gt;</p>	<p>2.5人</p>	<p>—</p>	<p>3.7%</p>	<p>—</p>
	<p>令和5年事業年度 &lt;今回評価値&gt;</p>	<p>5.6人</p>	<p>↑</p>	<p>5.1%</p>	<p>↑</p>
	<p>令和6年事業年度 &lt;今回評価値&gt;</p>	<p>7.7人</p>	<p>↑</p>	<p>5.1%</p>	<p>→</p>
	<p>令和7年事業年度 &lt;今回評価値&gt;</p>	<p>7.3人</p>	<p>↓</p>	<p>7.9%</p>	<p>↑</p>
	<p>目標達成状況</p>	<p>目標値：7.5人以上 (目標未達)</p>		<p>目標：事業収支の上昇 (目標達成)</p>	
<p>施策の取組 状況</p>	<p>① J R 常磐線の役割分担 ・避難地域の中核施設を結ぶ幹線交通及び2次交通の機能を持つ (双葉町) ・町を縦断する J R 常磐線に対して主に浪江駅から東側の中心市街地を含んだエリアを面的にカバーする役割を持つ (浪江町)</p> <p>② J R 常磐線との接続の見直し ・富岡駅では、朝は問題ないものの、夕方の時間帯は接続しておらず、今後接続を見直しする必要がある (富岡町)</p> <p>③ ルート区間の分岐 ・地域の復興進展を踏まえながら、引き続き検討 (富岡町)</p> <p>④ 利活用の推進 ・町内で乗降する場合について一律 100 円で乗降できる補助を実施。公共交通マップを作成し、広域に周知を実施 (富岡町) ・窓口へのチラシ設置、ホームページ等による路線の周知 (浪江町)。</p>				
<p>課題・取組 の方向性</p>	<p>・事業収支の評価値は達成しているが、利用人数は微減となっている。 ・浪江町内での利用が低調なため、FH2R利用者等に対する利用促進策を検討する。 ・沿線自治体、交通事業者間の連携、また、学校・工業団地等の地域情報の収集などを深めて、バス停の増設など利用者を掘り起こしていく。</p>				
<p>特記事項</p>	<p>・回送便を活用して「浪江町役場」～「FH2R」便を4往復運行。</p>				

事業 1 - 8 双葉～南相馬系統

<p>利用状況 (1日当たり)</p>	<p>◆通学利用者 ・通学利用なし</p> <p>◆通勤利用者 ・通勤利用なし (双葉町、浪江町民の通院や買物等の利用目的としてダイヤを設定しているため、通学・通勤の利用実績は現状なし)</p> <p>◆主な利用 ・双葉町内の「双葉駅前」～「伝承館・産業交流センター前」間の利用が多くを占めている。 ・浪江～南相馬間の利用はみられるものの、双葉～南相馬間の広域的な利用はほとんど見られない。</p>				
<p>指標</p>	<p>年 度</p>	<p>1日当たりの 利用者数</p>		<p>事業収支</p>	
	<p>令和6年事業年度 &lt;今回評価値&gt;</p>	<p>2.9人</p>	<p>—</p>	<p>1.1%</p>	<p>—</p>
	<p>令和7年事業年度 &lt;今回評価値&gt;</p>	<p>3.3人</p>	<p>↑</p>	<p>1.5%</p>	<p>↑</p>
	<p>目標達成状況</p>	<p>目標値：8.0人以上 (目標未達)</p>		<p>目標：事業収支の上昇 (目標達成)</p>	
<p>課題・取組 の方向性</p>	<p>・令和7年9月末をもって実証運行を終了。</p>				
<p>特記事項</p>	<p>・本系統廃止後の、当該地域の公共交通の在り方については、引き続き、関係機関において協議・検討を行う。</p>				

## □施策2 浜通り地方を運行する地域公共交通のDX推進

### 事業2-1 バス路線へのキャッシュレス決済システムの導入

事業者名	導入システム	導入時期
福島交通株式会社	現行のICカード「NORUCA」の機能を拡充し、新たにクレジットカードのタッチ決済、QRコード決済、電子マネー決済に対応する。	令和6年9月
新常磐交通株式会社	地域連携ICカード「LOCOCA」	令和6年5月

※福島交通(株)及び新常磐交通(株)のキャッシュレス決済システムは、福島県生活路線バスキャッシュレス決済導入支援事業補助金(令和4年度事業(令和5年度に繰越))でシステム整備。

### 事業2-2 利用実績に基づく公共交通体系の改善

- ◆キャッシュレス決済の乗降データを活用し、今後、データ利活用の枠組みを策定し、有効・有益な活用方策の検討を進める。
- ◆県内のバス路線を1つのマップ上に表示し、停留所や時刻が簡単に検索できる仕組みとして、公共交通デジタルマップ「FLAT」を令和7年3月31日に構築し、生活交通課及びふくしまポータルサイトに掲載した。市町村のコミュニティバスやデマンド交通、地域鉄道等も登録できるように拡張性を持たせ、コンテンツを充実させていく予定。

### 事業2-3 バスロケーションシステムの導入

- ◆令和6年2月から新常磐交通株式会社のバス路線で運用開始。  
(GPS等を用いてバスの位置情報を収集し、スマートフォンやパソコンを通じて情報提供するシステム)

### □施策3 地域公共交通の維持・確保

#### 事業3-1 域内公共交通の維持・確保

- ◆福島県市町村生活交通対策事業補助金
  - ・地域住民の日常生活に必要な生活交通の確保を図るため、地域の実情に即し主体的に生活交通対策事業を行う市町村に対し、運行費を支援。
- ◆福島県地域公共交通活性化補助金
  - ・地域公共交通計画の策定や当該計画に位置付けられた事業の実施による地域公共交通の活性化や再生を目指す市町村を支援。  
⇒ 実証事業を実施した市町村の事例集を作成し、各市町村に横展開を行う。

#### 事業3-2 広域公共交通の域内公共交通の乗り継ぎ環境の改善

- ◆広域バス路線の利用状況を見ながら、効率的かつ利便性の高い移動手段を確保するため、継続的に検討する。

#### 事業3-3 イベントの企画・インセンティブの検討・充実

- ◆運輸事業振興助成交付金
  - ・利用促進啓発（新聞広告、ポスター作成等）

#### 事業3-4 公共交通ネットワークの周知

- ◆関係市町村において運行ダイヤ等を周知

#### 事業3-5 路線バスやタクシーの人材確保

- ◆合同就職説明会、求人情報発信等での連携